

琉球大学学術リポジトリ

沖縄初期県政に関する政治社会史的研究：
華族県令と「旧慣」政策を中心に

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2018-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 勇樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/40987

様式第13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	豊見山 和行	印
副査	赤嶺 守	印
副査	新城 郁夫	印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	■■■■	学生氏名	前田 勇樹
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	豊見山 和行
		副指導教員	赤嶺 守・新城 郁夫
成績評価	学位論文	合格	不合格
論文題目	沖縄初期県政に関する政治社会史的研究 —華族県令と「旧慣」政策を中心に—		
審査要旨	<p>本論文は、1879年の琉球国の廃滅（琉球処分）前後から沖縄県設置後における初期県政の時期を中心に、華族県令（鍋島・上杉）と旧慣に関わる領域を基軸として、またそれらと関連する問題群を含めて考察した論考である。本論考の大きな特長は、第一に旧来、本格的な専論がなかった華族県政論を基軸に新たな視点と方法によって実証的に分析した点にある。琉球藩期に実施された明治政府による官公調査と初期県政との関連性、明治維新以前の両県令の出身地における統治様式と沖縄県令赴任後の施策との連続性の問題、および華族県令に対する日本本土メディアの報道状況を詳細に解明している。第二に琉球処分期に大流行した天然痘について、王朝体制下で実施されていた予防措置が新県政では機能しなかった点を政治的要因と社会的要因から新たに解明した点にある。</p> <p>旧来、琉球処分研究において政治外交史、国際関係論の分野では分厚い研究蓄積がある一方、近代沖縄社会に視座をおいた本格的な政治社会史論を展開したものはほとんどない。政治社会史という分野においては本論文が新たな領域を切り拓いたものと言えよう。先行研究を丹念に把握していること、課題設定も妥当で明確であり、叙述においても全体として一貫した体系性を有していることなど、本論文の意義は高く評価できる。</p> <p>以上のことから、審査委員会では三人の委員が一致して、博士論文の水準に十分達しているものと判断した。</p>		

様式第14号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	豊見山 和行	印
副査	赤嶺 守	印
副査	新城 郁夫	印

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	学生氏名	前田 勇樹
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻	主指導教員	豊見山 和行
	副指導教員	赤嶺 守・新城 郁夫
成績評価	最終試験	合格
結果要旨	<p>本論文の題目は、「沖縄初期県政に関する政治社会史的研究—華族県令と「旧慣」政策を中心に—」である。副査・赤嶺守の統括のもとに、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について口頭による最終試験として、以下の諸点を軸に実施した。</p> <p>まず口頭試問で関連質問（申請者の使用する「廃琉置県処分」用語と旧来の「琉球処分」用語の差異とその用語の積極的意味づけ等）を行い、本論文が学位の水準に達していることを確認した。</p> <p>次に、本論文に関連する基礎的な専門知識（先行研究との関連性）や自らの論文の研究上の新たな位置づけを問い、研究史上において貢献があったことを確認した。その上で、本論文で取り上げた研究分野に係る授業科目、「琉球近世史学特論」「琉球近世史学演習」、「比較地域文化特別研究」などの視点から、学位に相応しい研究能力とその学識を有していることを確認した。</p> <p>公開の最終試験において、申請者に対して様々な角度からの質問にたいしても申請者は的確に回答するなど、十分な能力を有していることを確認した。</p> <p>以上の諸点から、本審査委員会は本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験に合格と判断した。</p>	